

あなたへの「聖書メッセージ」 【 天使と悪魔 】

今回は、「天使」「悪魔」そして「悪霊」について、聖書から正しく教えられたいと思います。メッセージとして、「天使」や「悪魔」のことを聞かれたことは、多くなかったかもしれません。今日は、聖書から正しく教えられましょう。

関係ある聖書の箇所を、読んでおきましょう。「エペソ人への手紙」6章10節～12節まで。「終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は、血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」

「悪魔」「悪霊」ということばが出てきます。そして、彼らこそ「この暗やみの世界の支配者」なのだと言っています。

あなたがたは、毎日毎日、目に見えるものがすべてだと思って、苦労し、悩み、奮闘しているけれども、実はそれらは、見える形での、見えない世界のあらわれであって、その背後にこそ根本的なものがあり、悪魔や悪霊たちとの格闘がなされたおり、あなたがたも気づかないままに、神の側に立つか、悪魔や悪霊の側に立つかしているんですよ、ということです。

見えない世界こそ根本的なものであり、それがどれだけ見えているか、認識できているか—— ということこそ、重要なことなのです。

「私はわかっている。知っている。」と思っている人ほど、実は、見えていないのです。ただ、悪魔や悪霊が一時的に支配する、この暗やみの世界のことをあれこれよく知っている、というだけのことです。肝心なことは、何も見えていません。

今まで、そのように考えられたことがあったでしょうか。

「この暗やみの世界の支配者」とありましたが、主イエス・キリストは、私たちが暗やみから光に、サタン（悪魔）の支配から神に立ち返らせ、イエス・キリストを信じる信仰によって、私たちに罪の赦しを得させ、天国を受け継がせて下さいました。

暗やみから光に、サタンの支配から神の側に立ち返らせて下さったのが、主イエス・キリストでした。

さて、すべてのものは、神の手によって造られたのではなかったのでしょうか？
どうして、世界に悪しきものが、満ち満ちているのでしょうか？
不品行、汚れ、好色、魔術、敵意、争い、殺人、姦淫、盗み、偽証
毎日のニュースを見ても、そうした内容のものであふれています！

どうして、神の手によって造られ、今も神の手によって生かされ支えられているはずの、この世界が、このような、悪がみちている暗やみの世界なのでしょう。

万物は、神の御子イエス・キリストにあって造られました。
天にあるもの、地にあるもの、見える物、また見えないもの、王座も主権も、支配も権威も、すべて御子イエス・キリストによって造られました。万物は御子によって造られました。又、万物は、

神の御子イエス・キリストにあって成り立っています。

「神は、お造りになったすべてのものをご覧になった。見よ。それは、非常によかった。」と、「創世記」の最初に記されています。

主イエス・キリストが、地球の基礎を定められた時、天のみ使いたち（天使たち）が、“みな喜び叫んだ”とあります。ということは、旧約聖書・「創世記」の1章・2章に記されている〈天地創造〉、私たちがこの目で見ることのできる世界が造られる以前に、“天使たちは創造されていた”ということがわかります。

見えないものは、見える物が創造される前に造られていたのです。
天の御使い（みづかい）・天使たちは、地球や人間が造られる前に造られました。

すべてのものが神によって造られたのだとしたら、悪魔や悪霊も、神によって造られたのでしょうか。
〈天地創造〉の時点で、すでに悪が存在していました。悪魔や悪霊は、存在していたのです。

神である主は、最初の間であるアダムを創造し、“エデンの園”に置かれた時、エデンの園の中央に「いのちの木」と「善悪の知識の木」という名前の2本の木を、生え出させられました。

そして、「善悪の知識の木からは、取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」と、人に命じて仰せられたのです。

しかし、その時、すでに存在していた誘惑する者に誘われて、男も女も・アダムもエバも、その実を取って食べ、悪を知る者となり、神に対して罪を犯してしまうのです。

人類の最初の間から、神に対して〈罪人〉（つみびと）としての出発をしてしまったのです。

〈天地創造〉の時点で、すでに、悪が存在していました。

天地に「悪」なるものが、本来、存在していなかったとしたら、「悪」とは何であるか、想像もできないような状態であったとしたら、エデンの園の中央に「善悪の知識の木」などという不思議な木を生えさせられなかったはずです。それには、理由があったわけです。

どうして、この時点で、悪が存在していたのか、誘惑する者が存在していたのか。

主なる神が、「悪」や「誘惑する者」を創造されるはずがありません。

この世界をおおっている、罪や悪や、争い、苦しみ、悩み、自然界の混乱、病気、死など、これらの出発となったもの、そして今も、ほえたけるライオンのように、食い尽くすべきものを求めながら、歩き回っている者の存在を知らなくてはならないのです。

悪の起源、悪は地上において始まったのではなく、天において始まったものなのです。

実は、悪魔や悪霊もかつては、天使だったのですが、まず、「天の御使い・天使」について、聖書から教えられたいと思います。

天使とは、どのようなものか、どのようなものとして造られたのか、見ていきましょう。

天使が造られた時のようすは、私たちには興味深いことですが、必要な知識ではありませんので、聖書には記されていません。

人間が考え出した天使像といえますのは、ぶちぶちした子どもで、背中に羽根がはえていて、お菓子のマークになっていたりしますが、全然聖書的ではありません。これは、悪魔についても同じことがいえます。

天使は、天において神に仕える、超自然的で、霊的な、知性も感情も意志ももった存在として、創造されました。霊的な存在ですから、ふつう、私たちの目では見ることはできません。

天使は、神のみこころをなすために、神に仕えるものです。

天使たちは、知性においても、勢いにおいても、力においても、人間よりまさっています。

たった一人の天使の力でも、非常に強大です。

イスラエルのヒゼキヤ王の時代に、侵略してきたアッシリヤの陣営で、夜のうちに主の使い（天使）が出て行って、18万5千人を打ち殺しました。

〈イースター〉、イエス・キリストが復活された日の朝、天使が天から降りてきて、墓の入り口をふさいでいた大きな石を、わきまにころがして、その上にすわったため、大きな地震が起こりました。

その顔は、いなずまのように輝き、その衣は雪のような白でした。

この時は、人の目に見えるようにされたので、番兵たちは、御使いを見て、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになりました。

光輝き、衣の白さは聖さを象徴しているかのようです。

聖い、輝いた、このような天使に対して、「黙示録」を書き記したヨハネは、彼を拝もうとして、その足もとにひれ伏しました。すると、天使はいいました。

「いけません。私は、あなたや、イエス・キリストのあかしを堅く保っている、あなたの兄弟姉妹たちと同じしもべです。神を拝みなさい。」

天使は、礼拝の対象ではないのです。礼拝の対象になってはいけません。

悪魔（サタン）は、逆に、自分の前にひれ伏すことを求めます。

悪魔が、荒野で、イエス・キリストを誘惑した時、イエス・キリストを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、言いました。

「もしひれ伏して、私（悪魔）を拝むなら、これを全部、あなたに差し上げましょう。」

あとから述べますが、悪魔（サタン）も御使いの一人として造られましたが、悪魔はひれ伏して、拝むことを求めます。

しかし御使いたちは、ひれ伏して拝もうとすると、

「やめなさい。私は、あなたや、預言者たちや、聖書のことばを堅く守る人々と同じく、神に仕えるものです。神を拝みなさい。」 そのように言うのです。

コロサイ教会の中に、「御使い礼拝」（天使礼拝）をする、異端が入りこんでいたことが記されています。

次に、天使は、自然法則を超越しています。

イエス・キリストの12弟子の一人であった、ペテロが捕らえられて牢に入れられていた時、夜、ペテロは二本の鎖につながれて二人の兵士の間で寝ていたのですが、突然、主の御使いが現れ、光が牢を照らします。御使いがペテロのわき腹をたたいて彼を起し、「急いで立ち上がりなさい。」と言います。すると、鎖が彼の手から落ちます。

御使いに言われるままに、牢の外に出て、御使いについて行きます。第一、第二の守衛のいる所を通り、町に通じる鉄の門まで来ると、門がひとりで開きます。

ペテロには、御使いのしている事が現実のことだとはわからず、幻を見ているのだと思われました。

さて、このような天使の数は、どれ位いるのだろうか、とといいますと、それは、数えきれないほど存在します。その数は、千の幾千倍・万の幾万倍と言われ、無数の御使いたちとも記されています。

ゲツセマネの園でイエス・キリストが、ユダの率いる大ぜいの剣や棒を手にした群衆に捕らえられた時、イエス・キリストは言われました。

「わたしが、父なる神にお願いして、十二軍団（7万2千人）よりももっと多くの御使いを、今、わたしの配下に置いていただくことができないとも思うのですか。」

名前が明らかにされている天使もいます。「ミカエル」と「ガブリエル」です。

ミカエルについては、「御使いのかしらミカエル」とか、「あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエル」といわれています。

ガブリエルは、主なる神のメッセージを伝える時に登場してきています。

「ダニエルよ。私は今、あなたに悟りを受けるために出てきた。」と行って、預言者ダニエルに、神のみこころを伝えました。

イエス・キリストの母となった、おとめマリヤに対し、受胎告知のために遣わされてきたのも、ガブリエルでした。

「マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」

その他、「セラフィム」とか「ケルビム」とか言われているものも、天使であろうと思われれます。

天使たちは、めとることも、とつぐこともありません。結婚はしません。

かつて、イスラエルの民が“出エジプト”した時に、荒野で食べた「マナ」といわれる食べ物は、神が天の戸を開き、天の穀物を与えられたもので、「御使いのパン」「天使のパン」と言われています。白い色をしていて、その味は、蜜を入れたせんべいのようなものでした。

天使の仕事は、神のご計画を実行することです。神のみこころは、具体的には、天使たちによって実行されていきます。

神は、御使いたちを風とし、仕える者たちを炎として用いられます。

先ほども話しましたが、侵略してきたアッシリヤの陣営で、主の使いが出て行って、18万5千人を打ち殺しました。

民衆から「神の声だ。人間の声ではない！」と叫ばれて、ごう慢になっていたヘロデ王を、主の使いが打ったので、彼は虫にかまれて息が絶えました。

主イエス・キリストの地上での歩みにおいても、天使がつねに登場してきています。

天使がヨセフに、マリヤが聖霊によってみごもっていることを告げました。マリヤにも、受胎告知をしました。

クリスマスの夜、天使が羊飼いたちに、すばらしい喜びを知らせに来ました。そして、天使たちによるすばらしい賛美を聞かせてくれました。

「いと高き所に、栄光が神にあるように。

地の上に、平和が、御心（みこころ）にかなう人々にあるように。」

天使がヨセフに、幼子とその母マリヤを連れて、エジプトに逃げるように言いました。

ヘロデが死ぬと、天使がヨセフに、イスラエルの地に帰ってくるように言いました。

イエス・キリストが荒野で、悪魔の誘惑に勝利された後、天使たちは、イエス・キリストの所に来て仕えました。

イエス・キリストのたとえ話の中にも、しばしば、天使のことが語られました。

ゲツセマネの園で、血の汗を流しながら祈られるイエス・キリストを、天使が力づけました。

イースターの朝、天使たちは、墓にやってきた女たちに、イエス・キリストの復活を告げました。

又、天使たちは、神のご計画を実行する一環として、神の民・救われた人たちを助け、守り、強めてくれます。

御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続者となる人々に仕えるために遣わされました。

特に、主なる神は、小さい者たち・子ども達が、ひとりでも見下げられたりしないように、子ども達に仕える天使たちが、天におられる父なる神の御顔をいつも見ていて、すぐ行動に移せるようにしている、と記されています。

天使たちの、具体的な行動が、聖書のいたる所にちりばめられています。

アブラハムに対し、ヤコブに対し、ハガルに、モーセに、ヨシュアに、エリヤに、ダニエルに、ギデオンに、サムソンに、ペテロに、ピリポに、コルネリオに・・・という風に、名前をあげていったらキリがありません。

というよりは、「御使いはみな、救いの相続者となる人々に仕えるために遣わされている」とありますから、今名前を挙げた人たちだけでなく、実は、救われた私たち一人一人のためにも、天使が遣わされ、仕えていてくれるのです。天におられる父なる神の御顔をいつも見ていて、すぐ行動に移して、私たちを助け、守り、強めてくれているのです。

私たち一人一人、個人に対してばかりではありません。「黙示録」に、“教会の御使いたち”と記されているように、各教会一つ一つにも、つかわされている御使いがいます。

私たちの力や知恵で、すべての事がすすめられていると思っはけません。神のみこころを、教会がある地で実行していくために、具体的に、直接的に働いているのは、私たちのこの目では見ることができませんが、実は御使いたち・天使たちなのです。

そして、ついには、私たちが天に召される時、パラダイス・天国に連れて行ってくれるのも、御使いたちです。私たちの魂があてもなく、天国はどこだ〜〜？ といって、さまようではありません。天使たちによって、主のみもとに連れて行かれるのです。

主イエス・キリストが再臨されて、最後の審判をされる時も、すべての御使いたちが、主とともにやってきます。

しかし、このような力ある天使たちも、「福音」を宣べ伝えることは、神にまかされてはいません。福音を宣べ伝えることは、すでに救われた人間に委ねられていることです。福音は、私たちが伝えなければなりません。

さて、いよいよ、神に敵対する霊的存在である、悪魔・サタン及び、彼と行動をともにしている悪霊について見ていきましょう。

「悪魔」と訳されていることばのギリシャ語の聖書の原語は、“ディアボロス”といいまして、「反抗者」という意味です。

「サタン」とそのまま使われている場合がありますが、これはギリシャ語では「サタナス」、ヘブル語では「サタン」。意味は「敵対者」ということです。

神が、「反抗者」や「敵対者」をはじめから創造されたわけではありません。もとは、御使い・天使だったのですが、高慢ゆえに墮落し、神から離反したのです。

そのあたりの事情を伺わせる聖書のみことばが、いくつか記されています。

「暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは、天から落ちたのか。どうしてあなたは、地に切り倒されたのか。あなたは、心の中で言った。

『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に、私の王座を上げ、いと高き方のように上ろう。』

しかし、あなたはよみに落とされ、穴の底に落とされる。」

“いと高き方・神のように上ろう”としたのです。

「神である主は、こう仰せられる。

あなたは、全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。あなたは神の国・エデンにいて、あらゆる宝石があなたをおおっていた。わたしはあなたを、油そそがれた守護者ケルブとともに、神の聖なる山に置いた。あなたの行ないは、あなたが造られた日から、あなたに不正が見いだされるまでは完全だった。

あなたの心は、自分の美しさに高ぶり、その輝きのために、自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしは、あなたを地に投げ出し、王たちの前に見せものとした。」

主イエス・キリストご自身も話の中で、「わたしが見ていると、サタンがいなずまのように、天から落ちました。」と語られました。

悪魔とかサタンとか言われる天使が、たった一人でとった行動ではありません。

彼は、“知恵に満ち、美の極みだった”ほどの天使でしたので、彼と行動を共にした天使たちが、群れをなすほど、多くいたのです。

主なる神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に、閉じ込めてしまわれました。

自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められたのです。

こうして、悪は、地上においてではなく、天において、天地創造以前に始まったのです。

そして、その首謀者が、「悪魔」とか「サタン」とか呼ばれる、もと天使であったものなのです。

彼は、他にもいろんな呼び方で呼ばれています。

「試みる者」「誘惑者」「全世界を惑わす者」「悪い者」「告発者」「この世を支配する者」「この世の神」「日夜、私たちの神の御前で訴えている者」「空中の権威をもつ支配者として、今も不従順の子らの中に働いている霊」「敵」「悪霊どものかしら・ベルゼブル」（ベルゼブルというの

は“地に落ちた神”という意味です。)「ベリアル」(“神を信じない者”という意味です。)
「偽り者」「偽りの父」——とも言われています。

「悪魔は、初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼の内には、真理がないからです。彼が偽りを言う時は、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら、彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」

悪魔は、天地創造後、まもなく、最初の女性であったエバを誘惑して、罪を犯させ、夫であるアダムともども、主なる神に対して、見事に反抗する者とさせました。人間を、神に敵対する悪魔の仲間にしたのです。

悪魔は、神の人・ヨブに、何とかして神をのろわせようと、迫ってきました。

悪魔は、ダビデ王を誘い込んで、人口を数えさせ、神にたよるよりは、人の数にたよるように仕向け、見事成功しました。

このことは、神のみこころをそこない、このことのために、神はイスラエルを打たれます。

ダビデは、神に祈ります。「私は、このようなことをして、大きな罪を犯しました。今、あなたの上もべの咎(とが)を見のがして下さい。私は本当に、愚かなことをしました。」

悪魔は、主イエス・キリスト、神ご自身をさえ試みました。

「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」

「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。」

「もしひれ伏して、私を拝むなら、この世のすべての国々とその栄華を全部、あなたに差し上げましょう。」

主イエス・キリストは言われました。

「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある！」

このように、天地創造のはじめから今に至るまで、悪魔は、信仰者を墮落させ、主なる神に敵対させようとして働いているのです。

「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを求めながら、歩き回っています。この悪魔に立ち向かいなさい。」

と、使徒ペテロは訴えています。

悪魔に立ち向かうといっても、私たちとは比べものにならない、知恵と力の持ち主です。

ヤコブも、同じことを言っていますが、次のように言っています。

「神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに、近づいて下さいます。」

「神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。」というのです。そうすれば、悪魔は私たちから逃げ去ります。悪魔に勝利することができる、というのです。

悪魔の性質は、執念深いものです。神の子イエス・キリストを誘惑した時も、一つ失敗したら次、という風に、神に対してさえ、三度も波状攻撃をしかけ、誘惑の手を尽くしたあとも、しばらくの間、イエス・キリストから離れただけです。

あとからも、ペテロを操り、ユダに入って神の御子に攻撃の手をゆるめることはしていません。

悪魔・サタンは、“光の御使い・天使”に変装して、教会の中に顔をのぞかせてくることもある

のです。

ちょうど、サタンに操られた蛇によって、エバが巧みに欺かれたように、万一にも、私たちの思いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うようなことがあっては大変です。

悪魔・サタンは、イエス・キリストに従う者を妨げ、神のご計画を打ち砕こうとします。

悪魔・サタンは、パウロの伝道旅行を妨げました。

悪魔・サタンは、彼の邪悪な計画を実行するために、人間の内に入って、自分の手先として使います。

悪魔・サタンは、十二弟子のユダに入って、イエス・キリストを裏切らせました。

悪魔・サタンは、神の前に、人を訴えます。

悪魔・サタンは、ヨブを訴え、大祭司ヨシュアを訴え、兄弟姉妹たちを日夜、私たちの神の御前で訴えているのです。

悪魔・サタンは、神のみわざがすすめられようとするのを押しとどめ、人々が神のことばを聞かず、信じないように働いてきます。

人々がみことばを聞いても、すぐサタンが来て、彼らに蒔かれたみことばを持ち去ってしまうのです。

この世の神・悪魔が、人々の思いをくらませて、神のかたちであるイエス・キリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。

悪魔ばかりではありません。彼の手下である、おびたしい数の悪霊どももいっしょになって働いています。

悪魔が、人々に、神に背かせようと誘惑し、真理に戦いをしかけてくるのを、悪霊たちはそれに協力し、実行にうつっていきます。

人々を、汚れにおとし入れ、病気をもたらし、異端をはびこらせ、占いや霊媒・口よせ・魔術・オカルトなどの悪霊礼拝にさそいこみます。

いろんな宗教を信じさせ、偶像礼拝をさせて、真の神に目を向けさせないようにしているのも、悪魔であり、悪霊たちです。偶像礼拝は、悪魔・悪霊への礼拝です。

このような悪魔・サタンや悪霊たちに対して、私たちは、どのような姿勢をもっているべきでしょうか。

悪魔は、私たちとは比べものにならない位、強い力と知恵を持っている存在であり、私たちを欺いて、墮落させようとたくらみ、あなたの性格の最も弱い所を知っているという事実を、深く考えるべきです。悪魔は、その弱点につけ入って、あなたを打ち負かそうとすきをねらっているのです。

悪魔に勝利を得ることは可能ですが、あなた自身の力では、この強い敵に勝利することは、全く不可能であることを、覚えておかなければなりません。

私たちの主イエス・キリストが、人となられて、この世に来て下さったのは、悪魔のわざを打ち壊すためでした。

悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯、死の恐怖につながれて奴隷になっていた人々を解放して下さるためでした。

悪魔に制せられているすべての者を、主イエス・キリストはいやされました。
平和の神はすみやかに、サタンを踏み砕いてくださいます。

悪魔の力は強力ですが、決して神にまさるものではなく、最後には、イエス・キリストによって滅ぼされます。

悪魔や悪霊たちは、最後の審判で、地獄（ゲヘナ）の火と硫黄との池に投げ込まれるのです。彼らは、ゲヘナ・地獄で永遠に、昼も夜も苦しみを受けるのです。

「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら歩き回っています。

堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。

神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば悪魔は、あなたがたから逃げ去ります。」

そして、今日のみことばにもう一度、目を向けてみましょう。

「終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。

私たちの格闘は、血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」

主イエス・キリスト、神の子、救い主。その大能の力によって、強められなさい。そうすれば、悪魔に勝利でき、悪魔を恐れる必要はないのです。

勝利は、キリスト。

勝利は、十字架の主イエス・キリストです。

このキリストを信じ、従っていきましょう。

「あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。

これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。」 アーメン

※「アーメン」というのは、“真実です。その通りです。”という意味です。